

北海道獣医師会雑誌投稿規程

昭和42年3月23日	設	定
平成8年12月9日	一	部改正
平成11年4月1日	一	部改正
平成13年7月1日	一	部改正
平成20年5月21日	一	部改正
平成25年12月13日	一	部改正
平成29年5月24日	一	部改正

1. 筆頭著者は原則として北海道獣医師会会員とする。ただし、総説、論説、研究紹介、資料などについては必要に応じ、会員外にも執筆を依頼できる。獣医系学部学生は北海道獣医師会会員である指導教員の責任下で投稿を認める。
2. 原稿は編集委員会の審査を受け、必要に応じ、字句訂正などの指示を受ける。
3. 採択された原稿は原則として受付順に掲載する。
4. 原稿の内容および分量は、原則として次の基準による。
 - (1) 総説：すでに学会において認められた業績、最近の研究の動向あるいは獣医学術に関するものを総括した論著で、できるだけ解説的な内容のもの。図表などを含めて、規定5-(3)によるA4原稿12枚以内とする。
 - (2) 論説：原則として獣医領域に関する論著。図表などを含めて、指定のA4原稿8枚以内とする。
 - (3) 原著：産業動物獣医学、小動物獣医学、獣医公衆衛生、野生動物獣医学、その他獣医学に関する研究業績をまとめたもので、原則として他の学会誌などに未掲載のものとし、図表などを含めて、指定のA4原稿12枚以内とする。
 - (4) 短報：産業動物獣医学、小動物獣医学、獣医公衆衛生、野生動物獣医学に関する症例報告、新しい知見などの速報的な短い論文で、図表なども含めて、指定のA4原稿8枚以内とする。
 - (5) 研究紹介：すでに他の学会誌などに掲載した研究業績や現在取り進めている研究などを解説的に紹介するもので、図表などを含め、指定のA4原稿10枚以内とする。
 - (6) 資料：新しい法令の解説やその他獣医事全般の業務ならびに技術の参考となるもので、図表などを含めて、指定のA4原稿8枚以内とする。

- (7) 抄録：国内外文献の抄録とし、指定のA4原稿2枚程度とする。
- (8) その他：海外情報、質疑、支部の話題・活動状況、随筆などの投稿で、指定のA4原稿4枚程度とする。

5. 原稿は明瞭に横書きし、記述の要領は次のとおりとする。

- (1) 原著は、表題、著者名、所属機関名、所在地（郵便番号含む）、要約（400字以内）、キーワード（5語以内）、緒言（見出し不要）、材料および方法、成績、考察、引用文献の順に記述する。結果および考察はひとまとめにして記述しても良い。なお、謝辞の必要がある場合は考察に続けて文末に記述する。
- (2) 短報は、表題、著者名、所属機関名、要約、キーワード（5語以内）、本文、引用文献の順に記述する。本文は必ずしも原著と同じく項目立てする必要はないが、症例報告は緒言（見出し不要）、稟告、現症、診断、治療、予後、考察などの順序で記述する。疾患名は日獣学会用語集に準じる。
- (3) 原稿は、コンピューターソフト（ワード/doc, docx形式で保存）を用いて作成する。A4版縦置きで、横書きとし、上下左右とも3.0cmの余白を設け、全角34字×32行/ページとする。なお、本原稿2枚が本誌のほぼ1ページにあたる。
- (4) 原稿の記述はすべて和文とし、現代かなづかいを使用し、漢字は専門用語を除き、常用漢字の範囲にとどめる。本誌の統一用語例を参考にする。
- (5) 本文中の外国人名は原語つづりのまま Mills のように姓のみを記す。家畜種名は漢字で記すが、一般的な動植物種名はカタカナで表記する。国名、地名などは原則として一般に使用されている表現とし、学術語は専門用語集などによる。微生物などの学名はイタリック体としアンダーラインで表示する。
- (6) 図・表および写真の説明文はまとめて原稿の最後に付し、文中にその挿入場所を指定する。本誌は原則モノクロ印刷であることに留意して、図および表はコンピューターソフト（エクセル/xls, xlsx、パワーポイント/ppt, pptx形式で保存）を用いて作成する。写真はコントラストの明瞭なものとし、文中の挿入場所が分かるようなファイル名（jpg形式で保存）を付ける。図・表および写真のファイルは本文中には貼り付けずに、個々のファイルを添付する。
- (7) 数字は算用数字を用い、度量衡の単位および略語は原則として次の例に従う。この他の略語を使用するときは、本文中で最初に使用するところで正式名称を記し、そのあとカッコ内に略語を示す。

【例】度量衡の単位および略語

mol, mmol, μ mol, N, %, m, cm, mm, μ m, nm, pm, cm^2 , k ℓ , d ℓ , ℓ , m ℓ , μ ℓ , kg, g, mg, μ g, ng, pg, hr, min, sec, rpm, Hz, kBq, Bq, cpm, dpm, ppm, ppb, $^{\circ}\text{C}$, cal, kcal, J, lux, pH, mBq, μ Bq, LD₅₀, IU, kDa, T, xg, m^2 , m^{-1} , Ci, mCi, IX

(8) 引用できる文献は、学会誌、専門的学術誌あるいは専門書とし、商業雑誌、学会抄録、講演会テキストなどは、原則として引用できない。本文中の引用箇所にはその文献番号を上付き [1, 2-5] のように記載する。

(9) 文献引用のリストは、本文中最初に引用した順に配列し、下記の例に従う。

①雑誌の場合は、著者名(全員列記)、論文のタイトル、誌名、巻、頁、年次(カッコ書き)を記載する。

②単行本の場合は、著者名、書名、訳者名、編者名、版、頁、発行者、発行地、年次を記載する。

欧文誌名の略称は、List of Journals Indexed in Index Medicus (<http://www.nlm.nih.gov/tsd/serials/lji.html>) によるが、指定のないものは省略しない。和文誌名は慣例的に使用されているもの(例:日獣会誌、北獣会誌、獣畜新報など)を除き、原則として省略しない。

また、著者は、次の具体例を参考に全員列記する。なお、訳者、編者は、1名のみ記載し、その他は和文では「他」とし、英文では「*et al*」とする。

【引用文献の具体例】

• 雑誌の場合

[1] 青山太郎、青山花子：子牛の開放性骨折の1例、日獣会誌、45、115-120 (1992)

[2] 青山太郎、青山花子、江戸三郎、東京 愛：犬のレプトスピラ症の抗原検出法、日獣会誌、45、135-138 (1992)

[3] Aoyama T, Aoyama H: The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)

[4] Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, : Pathogenicity of the aino virus in japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)

• 電子ジャーナルの場合

[1] 長田四朗：犬のブルセラ症の検出法、家庭動物の感染学会誌、25、55-65 (2010)、(オンライン)、<http://www.petzoonosis/article/25/1/1/pdf/s>、(参照 2013-04-20)

[2] Williams A : Superinfection of bovine leukemia virus genotypes in Africa, cattle doctor, 50, 215-220 (2012), (online), (<http://www.cattledoctor/lin/15/12/20/pdf/>), (accessed 2013-05-05)

[3] Mahmoud R, Akada K, Yoshida J : Levels of malondialdehyde and

4-hydroxyalkenals in bovine liver biopsy, *Comp Clin Pathol*,
DOI 10.1007/s00580-012-1484-8 (2012)

• 単行本の場合

- [1] 神田一郎：獣医微生物学、江戸三郎編、第1版、100-103、青山堂出版、東京（1992）
- [2] Smith J：選択毒性、赤坂次郎訳、250、学会出版センター、東京（1989）
- [3] Roitt IM：Immunology, Fred OG, *et al* eds, 2nd ed, 150-160, Gower Med Publ, London（1989）

6. 総説、論説、原著、短報、研究紹介および資料の投稿者に対し、50部を贈呈する。51部以上を希望する場合には部数に応じ実費を徴収する。予め原稿に希望部数を明記する。

7. 会誌の校正は編集発行人が行う。ただし、総説、論説、原著、短報、研究紹介などは初校のみ著者校正を依頼することができ、また他の記事は必要に応じて投稿者に初校を確認させることができる。

8. 原稿の送付先および投稿に関する照会は下記あてとする。

〒063-0804 札幌市西区二十四軒4条5丁目9-3

北海道獣医師会事務局・北獣会誌編集委員会

Tel 011-642-4826 Fax 011-642-4642

E-mail hokuju00@poplar.ocn.ne.jp